



左から、占部会長、持田学長、下村副会長

名古屋学院大学の「教育改革」を提唱し、2002年4月に就任された持田辰郎学長。昨年の本紙上での対談から1年。「教育改革」のその後、少子化や大学を取り巻く教育環境の変化に伴う「大学改革」の行方などをテーマに、持田学長と占部同窓会会長に対談していただきました。



出席者  
名古屋学院大学 学長 持田 辰郎  
名古屋学院大学同窓会 会長 占部 憲一  
司 会  
名古屋学院大学同窓会 副会長 下村 直己

## ご挨拶



名古屋学院大学  
理事長  
伊藤 信義

同窓会設立三十五周年おめでとうございます。日頃は本学に多くの面でご支援をいただきましてありがとうございます。紙面を借りまして深くお礼申しあげます。八月より内山理事長の後任として指名を受けました伊藤信義でございます。同窓の皆様方には今後いろいろな面でお世話

になりますし、またご心配をおかけすることもあると思いますが、今までも同様の「ご指導、ご支援がいただけるもの」と思っております。

皆様方もご承知のように、大学を取り巻く状況は猛烈なスピードで変化し続けており、それに応じた変化を求められている時代に入っています。本学も今荒波の中にいて困難な立場に立たされています。手遅れではありませんが時代の流れに沿って、学部・学科の見直しを全学の協力を得て、一日でも早く実現したいと思っています。本学が今まで同様、社会に貢献できる大学として発展するよう、微力ではありますが努力させていただきます。

# 学長

Tatsurou Mochida

# 同窓会 会長

Kenichi Urabe

## 対談

### 「個性輝く大学」が 名古屋学院大学の理想像

「学長が提唱されている「教育改革」は、1年前と比べてどのように進展していますか。

持田学長(以下学長に略) 1年前と比べて「教育改革」は着実に進んでいると考えています。画一的な教育指導ではなく、学生一人一人の実態に即した形で行っていくと現在さまざまな取り組みを鋭意行っています。例えば、商学部にも本年度から少人数クラスを導入したことなどはその一例です。編成はゼミと同規模。このクラスの利点は、一人一人の学生と

話をし指導していく中で、教員も今まで以上に学生たちの状況が把握できることに尽きます。少人数クラスは仕掛けの一例で、他にも取り組みはたくさんありますが、目に見える成果を出しながら、4年間という限られた時間の中で社会に通用する人材を育てるために、まだまだ試行錯誤している段階です。基本は「一人一人の顔が見える教育」を行います。学問を学ぶ意味や学生生活の基礎を教えていくというのが主旨です。今の学生気質は、同窓生の方々が学ばれた頃よりかなり変化しています。ある意味で、大学に入学してから「学ぶよろこび」をこちらから学生に提供していく必要があります。そ

こには適格な指導と方向付けが重要なポイントとなっています。

占部会長(以下会長に略) 学生の実態に即した適格な指導と学生生活への方向付けというお話は、確かにその通りだと思います。社会に身を置く私たちから見ても、今の学生像は、一般的に大学で学ぶ姿勢に対する焦点がブレているような気がしてなりません。その意味でも、「二人一人の顔が見える教育」を推進していただくことは、学生を受け入れる側として大変評価できると思います。

学長 今、お話しさせていただいたことはまだ

スタートの段階ですの  
で、今後さらに  
果を出していかないといけないと痛感しています。



「教育改革の現在と今後のポイントについてお話いただきましたが、今、大学は国公立大学の統合や法人化などをはじめ、少子化の影響も含めて大きな動きが起ころうとしています。あらゆる大学がまさに正念場を迎えていると思います。名古屋学院大学を今後どのように発展させ、か生き残りを図ろうとされていますか。

学長 一言で表すなら「個性輝く大学」を目指すことです。従来の大学モデルは、国公立大学